令和6年度
推薦入試　　【 人文・文化 学群　比較文化 学類 】

区　分	標準的な解答例又は出題意図
小論文（1）【英語】	問1 出題意図 無神論は有神論の対極として理解されることが一般的であるが、筆者は無神論をこのように理解することを批判する。本問では、筆者によって否定される見方を理解しているか、そしてその見方を日本語で簡潔に表現する能力を問う。 解答例 「無神論」（a-theism）という語が示す通り、無神論は有神論（theism）の対極にあり、有神論の否定としてのみ成立するという点で、本質的に否定的な性格を有し、有神論に依存するという見方。(96字) 問2 出題意図 有神論の台頭によってそれ以外の思想が無神論としてとらえられるようになる過程を、筆者は、ネス湖のネッシーから構想した「ネッシー信者と非ネッシー信者」という作り話を用いて説明する。本問では、この挿入話の全体的な内容、どこからが筆者の作り話であるか、そして本論の趣旨とのつながりが理解できているかを問う。 解答例 スコットランドにあるネス湖は何の変哲もない湖であったが、そこに未知の怪獣が住んでいるという話が持ち上がる。この怪獣はネッシーと呼ばれ、人々の注目を集めた。実際にあったこの出来事から、筆者は次のような作り話を構想する。ネッシーブームが高まり、ネッシーの存在を信じるネッシー信者の数が増えると、ネッシーの存在を信じることが当たり前となり、ネス湖を他の湖と同じ普通の湖として捉える人々は非ネッシー信者と呼ばれるようになる。この作り話は、有神論の台頭によってそれ以外の思想が無神論としてとらえられるようになる過程を譬えたものであり、そこでは神がネッシーに相当する。(278字)

問 3

出題意図

本文で論じられる無神論と有神論の関係を理解した上で、歴史や日常の出来事などから類似した事案を例として挙げ、それに対して自身の意見や考えなどを展開できるかを問う。また、本問では、以上の内容を適切に表現できる英作文能力を有しているかを試す。

解答のめやす

本文で論じられる内容の背後には、ある特殊な事柄 X の台頭によって、それ以外の事柄が非 X としてとらえられるようになるという構造がある。本問ではこの構造を適切に理解していることが求められる。類似するその他の事案の解答例としては、スマートフォンの出現と拡大により、それ以前の携帯電話が「ガラパゴス携帯」（通称「ガラケー」）と呼ばれるようになり、その機能の前時代性が強調されるようになった例などが挙げられよう。

令和6年度
推薦入試　　【 人文・文化 学群　比較文化 学類 】

区　分	出題意図・正解例
小論文（2）【日本語】	問一 出題意図 本文を的確に読み取り、設問に即して規定字数以内でまとめる能力を問う。 解答例 近世の「文」の世界は、支配者層だけではなく民衆世界における文書の種類や量が激増し、その日常生活に浸透したという事実によって成熟が認められる。そして、文献史料を扱う歴史学者は、識字者の「文」を記す営為に注目するが、一方で、膨大な非識字者たちの存在を無視してはならず、むしろ識字能力が一定の密度で分散していたことが成熟を可能にしたと考えるべきである。「文」を自在に使いこなしていた識字者の割合は限定的だったからである。（200字） 問二 出題意図 人文系学問を学ぶ上で、「「文」の世界」はその基盤を成すものである。本問題では、これを現代的な社会や文化の問題として捉える応用力、また主体的な関心を持って客観的に考察し叙述する思考力、表現力とが備わっているかどうかを問う。 解答のめやす 現代において「文」の世界は、量や種類の増大に加え、メディアの複数性、さらに人工知能の活用による個の能力を超えた拡張性等、より複雑な様相を呈するにいたっている。また一方で、識字層／非識字層をめぐる状況も大きく変化している。そうしたなかから、具体的な例示を行いつつ、その対象をもとに現代の特徴を考察することが求められる。